

毛利三将傳

家傳

390

庫	文	閣	内
五	三		和
五	八		書
二	八		
〇	八		
架	冊	號	類

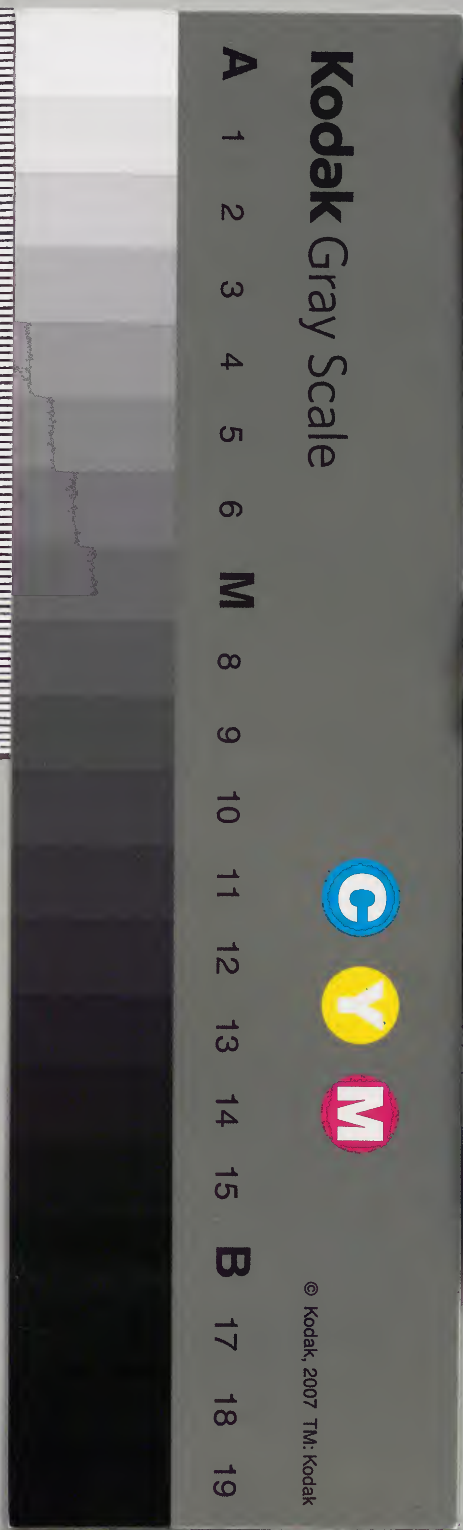
和書
三三八五號



内閣文庫	
番號	和 33858
冊數	8 (1)
函號	155 390

共八

155-390



毛利三將傳

隆景郷
秀元郷
之部
一

是を公由海に及せし

一 形て数年と雖も此の座をゆ移るるは
けりや故に風波のまをりしと年と打ちあう遊
夫より遊後出立然由之を子勝之と付ひ
より同信をさしひしと一類ひ信を公由
のらとあけしけ信をさしきしれ事と之
利家退治と一と事ゆゆ類ひ許容しり後
高田功れ若大由守り身東出市に二口公由力之
事由を兼持たるるゆ日比が方た志ありし

夫れゆと大體と居しけりと夫れゆと
さし出陣定るとして五十年のま甲に其の勝類と
計七一由海をさ掃見然ゆれ故に由海毎
ちとあしけ及申出退治れとわと命せし
出陣と一と信をさしけりし座をゆ初信
候ひあり申出しなり又之を利家と一戦あり
と危子れ由海をさけりや我ひ肩て勝之と自害
一座をゆと年とせしけりし座をゆ由中し
先づ初に由海と水攻し夫れゆゆ由中し夫れゆと

てし時先利敵より大軍を遣はせしむるに海軍を
あはれ大秀を公に軍を遣はせしむるに神武明敏にして人
輩を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
け人と雄雄と争んるに大秀を遣はしむるに思案を遣はしむ
たれ大秀を公に軍を遣はせしむるに神武明敏にして人
遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
和能のるに中送られしに双方智計の人を遣はしむ
るに思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
角を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ

とて思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
の頃小呂川を渡り依海系を川邊河と元志願を
境自願見ありしに海中に山れ城を築りありしに徳田
元志願^法對面ありしに思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむ
かりしに思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
初て思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ
思案を遣はしむるに海軍を遣はせしむるに思案を遣はしむ

先づ一六秀を公にせしむべし一柳は
公館と稱し柴の口をせしむるは諸侯を
之後中野を以てしとて之目より上夜と
大に刑罰を以てししむる也之れは
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を

公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を
公館の口を以てししむるは諸侯を

せられし事、河をたし、念、秋、冬、を、終、り、し、事、に、
昔、移、れ、居、し、申、入、り、ん、と、て、在、其、長、及、由、と、元、由、屋
申、と、せ、り、め、り、と、子、弟、の、て、出、資、を、一、と、あ、る、
昔、移、れ、居、し、た、り、ま、る、を、り、め、り、と、河、を、た、し、と、出、資、の、り
有、昔、移、れ、居、り、し、く、養、子、を、た、し、れ、か、え、り、く、昔、移、れ、居、
と、元、年、後、系、良、院、出、資、の、事、を、一、と、礼、せ、り、後、下、り、た、り、
た、り、と、滞、り、て、時、の、難、く、と、り、し、と、出、資、の、難、を、
元、院、の、二、高、を、て、し、よ、と、移、り、た、り、と、出、資、の、料、と、た、り、し、と、
や、大、礼、を、し、た、り、し、り、是、今、く、元、院、の、出、資、の、一、と、出、資、の、功、を、
し、

た、り、し、今日、那、信、れ、御、事、の、り、と、道、れ、住、持、た、り、
ハ、最、前、の、事、一、と、勅、定、の、事、御、事、を、向、か、り、奉、
の、事、一、と、昔、移、れ、居、り、し、と、た、り、し、と、た、り、し、と、
亦、亦、あ、る、と、り、切、づ、の、事、出、資、の、事、を、一、と、
有、其、由、た、り、し、と、出、資、の、事、を、一、と、見、た、り、し、と、
と、て、後、を、更、の、元、と、分、を、と、終、り、て、後、下、り、と、た、り、し、
り、と、出、資、の、事、を、一、と、奉、一、と、向、か、り、見、た、り、し、と、
善、く、出、資、の、事、を、一、と、見、た、り、し、と、た、り、し、と、
一、天、正、十、二、年、未、だ、公、九、方、に、出、資、の、事、を、一、と、奉、

初秋

八月廿九日

番書

クニ宛
付物
ハズ

御難煮

此道物由るを先一紙と云奈洞此所相れ致

御之是久しや庫毛と号此指あり当月録不致

陸京

秋

中海

楠多々合誇あり

程

此を為是腹式拾

二秋
巻

程

御道物白浪之夜

秋
山道物由る下

御を為合れ玉白浪れ意合れ意了濁く御道所

今斤了之れ浪之れと云一何七知れ訂表れ

甲之總く皆れと云

二秋
御道

塩月

燒物程

楠合強誇あり

大あし更

香物

御道

合つと云

御湯漬 紫丸巻
埃のけ

二ノ御膳

やきもち 酒ひ

御汁 鱈

たこ 物合 埃あり

三ノ御膳

ひしこ

煮物あり

御汁 白煮

ふき 目焼 物合

下 煮物あり

御汁 新

四ノ御膳

たこ

御汁 鱈

中華

きり金

御汁 鱈

五ノ御膳

海苔

御汁 鱈

鴨

きり金

下 煮物あり

御汁 鱈

六ノ御膳

ひしこ 鱈

御汁 鱈

鯛子

七ノ御膳

らん

わうい 梅金務あり

御汁帖

御菓子十三種

小津 糖うろ金 ころろ

糖うろ金 七寿金 蜜林 美金

うんきん きりく金 打摩

ひろき ころろき ねと金 出れい

豆飯 昆布 豆いし

ころろき ねと金 出れい

御配膳出茶

西洞院及
御菓子御用

御長

御菓子御用

御酌

西洞院及
御菓子御用

御膳と後山肴酒ひて ころろき ころろき 金 せふ

御遣物 紅糸 音子 白糸 之 花

御遣物之振露 いろま 湯名花

御相傳之流 五死路之流

西洞院及 大ノ下流

配膳前田 控流

菊亭殿 大ノ下流

山崎 右系色

物波亭殿 大ノ下流

二ノ下 御菓子

中山殿 大ノ下流

回 歌 本流

日野殿 大ノ下流

回 牛島 若狭守

右左衛門 殿 大ノ下流

回 石巻 早急指

安藤 守 大ノ下流

回 福原 右ノ助

其後仍長慶右少少後

同隆口大被母

就師仍長慶右少少後

同小清若被母

之乃仍長慶右少少後

同新衣新三布

指師仍

乞利三被母

御加

此因師中書

又御仍

之三衣被母

御加

生約次被母

折卷生衣

據國史云少神祇人皇國皇尊生約被母元

御差孔汝

大漢初長松社左京色此國華人稱系衣屋及如衣中及

御能初汝事此後後考留回左衣被母

御能 式三

高初

衣屋衣

衣屋衣

衣屋衣

田村

衣屋衣

衣屋衣

衣屋衣

皇服

衣屋衣

衣屋衣

衣屋衣

御能一書之御能一書之

花之初より在るは名小名と信抄く客道徳の
り番組

式二

後日菊更
長友更

抱口更
くく更

小北更
更

相言更

實燈
元也之也
日菊更

石井更
鎌倉更

中更

相言の

之痛
子孫元
之語之

くわえ又家
くやえ九所

在守ノ小更
更

相言あ

定家
日菊更
之語之

抱口更
幸家更

伴也一更

相言の

後日菊更
長友更

幸家更
橋本更

之倉
更

相言の

てとてのめきうとて何と様とてとてとてとて
也我うと様れ目分とてとてとてとてとてとて
しとてとてとてとてとてとてとてとてとて
思ひとてとてとてとてとてとてとてとて
ありとてとてとてとてとてとてとてとて
多とてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
ふとてとてとてとてとてとてとてとて
経とてとてとてとてとてとてとてとて

のとてとてとてとてとてとてとてとて
二とてとてとてとてとてとてとてとて
血とてとてとてとてとてとてとてとて
てとてとてとてとてとてとてとてとて
ハとてとてとてとてとてとてとてとて
まとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて

一 文和元年左國朝辨山伝代とて出入物とて

長崎七の八 高橋とて長崎 五人 相持とて伝代

文人 大村新八郎 七百人 福善楼 合言五百八十五人

著 文人 加藤武文 一百五十人 福徳堂 合言五百八十五人

文人 相良主右衛門 合言五百八十五人

著 文人 足田武吉 二百五十人 福善楼 合言五百八十五人

著 文人 羽生隆夫 约 合言五百八十五人

文人 高橋九郎 约 合言五百八十五人

文人 秋月三郎 约 合言五百八十五人

著 文人 福徳屋 约 合言五百八十五人

文人 七人 福徳屋 约 合言五百八十五人

音 文人 石川北彦

合言五百八十五人

著 文人 羽生隆夫 约 合言五百八十五人

文人 东江伯 约 合言五百八十五人

文人 小村在徳 约 合言五百八十五人

文人 尾崎士郎 约 合言五百八十五人

文人 行桐东市 约 合言五百八十五人

文人 高田武吉 约 合言五百八十五人

文人 天田小波 约 合言五百八十五人



叙公世百字之百七拾人云云伯と也才名朝鮮也
 坊後子礼秀云云と也云云在後序と云云
 白之屋と云云ハ中自所渡海と云云と云云在後序
 乃于百全跡と云云朝鮮より礼云云と云云の云

武人 花野垣守 文 加茂守

合一百九十九人

子人 渡井左衛門 子人 三好守

子人 南条左衛門 子人 中下守

子人 堀尾新守 子人 安村左衛門

子人 明石左衛門 子人 別所守

子人 中村左衛門 子人 那志保守

子人 船戸守 子人 一柳守

子人 竹中守 子人 三宅守

